

RPJ News

2021年 6月号

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 070-8438-0688

内 容

- * ザ・ヴィレッジ ISA 設立者リチャード・ヴァンホーンさん逝去
- * 2019年イタリア地域精神保健研修報告 第9回
 - 3 フリウリ=ヴェネツィア・ジュリア州トリエステの研修
 - 3-2 トリエステ SPDC での研修
- * トリエステ精神保健局ご支援のお願い

* ザ・ヴィレッジ ISA 設立者リチャード・ヴァンホーンさん逝去

ザ・ヴィレッジ ISA (Integrated Service Agency) の CEO クリスティーナ・ミラーさんからリチャード・ヴァンホーンさんが逝去されたとの大変残念な連絡が届きました。

ヴァンホーンさんは若いとき宣教師として日本に滞在歴があり、大の親日家でザ・ヴィレッジの設立メンバーの一人です。1990年にザ・ヴィレッジは設立されましたが、その目的はカリフォルニア州においてサイコ・ソーシャル・リハビリテーションが実現できるかという実験的プログラムでした。3年間の実践でザ・ヴィレッジの活動が評価され恒久的なプログラムとなりました。

本協会の設立者谷中輝雄は、やどかりの里の責任者だった1995年ケースマネージャー養成の研修目的でアメリカを訪問、そして研修の一環でザ・ヴィレッジを訪問しました。精神障がい者の社会復帰を目指して活動していた二人は、ここで意気投合する事となります。二人は同じ年齢のウサギ年生まれでクリスチャンであることなど、結び付ける要素はいくつもあったのです。

そして目的を持って帰国した谷中輝雄は1995年の12月に第1回ヴィレッジセミナーを実施、ザ・ヴィレッジに研修生を送り込みます。その研修生の一人として参加したのが、当時やどかりの里に勤務していた仁木美知子で、その後何度かザ・ヴィレッジ研修に参加したのち、やどかりの里研修担当となります。やどかりの里での運営は2002年2月第8回で終了となり、このセミナーを継続するためやどかりの里を退職した仁木美知子が谷中輝雄を理事長に迎え設立したのが本協会になります。2002年12月の第9回から2013年の第21回まで13回実施しております。その間ヴァンホーンさん、デービッドさん、マーサさんなど数多くの方にお世話になりましたが、2008年12月ヴァンホーンさん、マーサさんの引退が告げられました。

この機会に、ヴィレッジセミナーの成り立ちから協会の設立まで簡単に説明させていただきましたが、全ての原点はヴァンホーンさんに起因することをご理解いただけると幸いです。そして協会運営の第9回以



Mental Health America of Los Angeles mourns the passing of Richard Van Horn, our former CEO, and we offer our heartfelt condolences to his family and loved ones.

Richard permanently changed the way mental health services are offered, not just in California but around the nation. He was a major force in bringing about the Mental Health Services Act and a true pioneer in the recovery movement, which transformed the lives of countless individuals dealing with mental health needs. His advocacy on behalf of MHALA and those with mental health challenges continued long after he stepped down as CEO.

Richard also served on the boards of the California Institute for Mental Health, the National Council of Community Behavioral Health, and the California Council of Community Mental Health Agencies. He also served on the Mental Health Services Oversight and Accountability Commission. Most recently, he served as the chair of the board of directors of Mental Health America California.

In our work and our mission, we honor his life and his legacy every day. We are indebted to Richard for his 29 years of service as CEO, 12 more years as an MHALA board member, and his timeless spirit of generosity and service to others.

Christina Miller, Ph.D.
President and CEO



降だけ見ても、全国で約 200 名の方がヴィレッジセミナーに参加されました。この事は日本の精神保健福祉に良い影響をもたらしていることを確信しております。

ヴァンホーンさん長い間、本当に有り難うございました。安らかな眠りにつかれますよう、心よりお祈り申し上げます。

* 2019 年イタリア地域精神保健研修報告 第 9 回

3 フリウリ=ヴェネツィア・ジュリア州トリエステの研修

3-2 トリエステ SPDC での研修

(SPDC: Servizio Psichiatrico per Diagnosi e Cure: 診断とケアのための精神科サービス)

看護責任者のダニエラ・バビッチさんと若い看護師さんにお話を伺います。ダニエラさんは経験 29 年のベテランで SPDC に移動して 8 年になるそうです。

SPDC は 24 時間体制でサービスを提供しています。8 時～20 時までは精神保健センター(以降センター)で対応していますのでそれ以外の時間帯、夜間の場合は全て SPDC で対応しています。ですから救急車で病院に運ばれて SPDC に来る方が殆どです。

救急搬送された病院で精神疾患があると考えられた場合は SPDC に連絡が入り病院に出向き、どの様に処方するかを決めます。必要であれば SPDC に搬送します。センターで既に対応している患者さんも新規の患者さんも全てセンターと連携しながら対応しています。

(※トリエステのセンターは市内に 4 か所あり、市内を 4 分割した地域割りとなっているので、患者の住所から担当するセンターは特定できます。)

SPDC での滞在は出来るだけ少なくするよう心掛けています。現在病床は 6 床あります。4 つのセンターには合計 28 床あります。センターで対応できないことは SPDC で対応しますが、出来る限りセンターで対応していただくようにして SPDC での滞在を短くするように進めています。色々なサポート機能を持っているセンターに繋いでセンターの管理で生活できるように働きかけています。現在スタッフは、精神科医が常時必ず 1 名(都合が悪い場合は、センター所属の精神科医が 14-15 名おりますので、その方たちが朝・昼・夜と分担して流動的な形で掛け持ち対応する)、看護師が 17 名で 3 交代勤務、宿直は 2 名です。

Q) 夜間の精神科医はオンコール対応ですか？

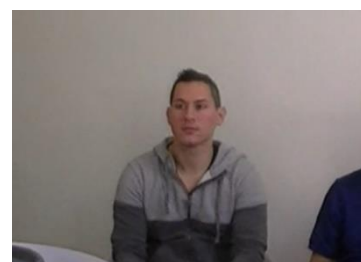
A) オンコールで SPDC に来ていただくか、救急車で病院に運ばれた場合は病院に出向き助言することになります。そしてその 2 か所が夜間に医師を呼び出すので、医師はほぼ毎日呼び出されている状況が続いています。

Q) 平均滞在日数は？

A) 一概に言えませんが、出来る限り 1 週間以内にセンターの方に出られるように対応しています。

Q) センターに移動できる条件は何かあるのですか？

A) ケースバイケースで判断することになります。医師の判断が勿論基準



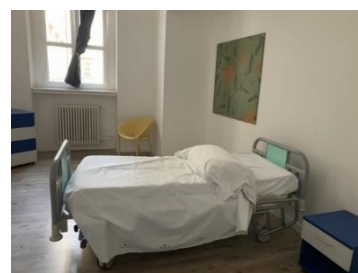
ですが、個人的な問題もありますし、家族や居住条件や患者をサポートする状況がどこまであるかという事まで考えて、その人の状況に合わせて判断していきます。画一的に書面が出来ているという訳ではありません。

Q) ここを出るためにはセンターでの管理に同意する必要があるのですか？

A) SPDC に入られた方は皆すぐ出たいというので、良く状況を判断することが必要です。

Q) 今まで対応してきた中で、一番困難を感じたのはどの様な方ですか？

A) 問題になる様な事はあまりないのですが、暴力的な方が一番問題です。暴力的な事が発覚するような場合は、その裏には何か苦悩があるわけで、その苦悩を理解しようと心がけます。何か規則があつてどの様に対応するかが決まっている訳ではなく、その時の状況や人夫々によって柔軟に対応することが原則です。外に連れ出してコーヒーを飲むだけで落ち着く方もおりますし、人夫々によって様々です。ですから一概に何かすれば良いという訳ではなく、マニュアル的に話をする事は出来ません。センターやボランティアが持っているネットワーク、社会的なネットワークを活用していくなかで、ここから出ていける環境を作っていく事が必要になります。



ここではメカニカルな拘束は一切使用しません。そして扉はオープンという事で 24 時間対応しています。そのための対応は大変重要です。警察に関与を頼まなくてはいけないこともあります。警察とも連携は取られているので警察の方でも精神疾患にどの様に対応するかという訓練がされており対応は心得ています。

Q) 強制治療はどの位ありますか？

A) トリエステとゴリツィアを合わせた数字になりますが、昨年 20 件です。対象人口は約 36 万人です。

Q) 開所時間は？

A) 24 時間 365 日、夜中・休日・祭日に関係なくいつでも対応します。

Q) 拘束が無く扉が開いていて、逃げ出し事故や他傷があった場合、だれが責任を持つのですか？

A) 基本的に外に出たい人には同行します。逃げ出すことは殆ど稀な状況です。何故ならここにいると保護されているという安心感があるからです。

Q) 入院患者 1 人 1 人にスタッフが付いているという事ですか？

A) ここには 6 床しかありませんので、患者 1 人に対して 1 人またはそれ以上のスタッフを配置しています。

有り難うございました。

* トリエステ精神保健局ご支援のお願い

理事長長野敏宏宛に精神科医大野裕先生からトリエステ支援に関する下記メールを頂きました。そしてメールには支援いただける場合は、<https://t.co/0skVCBWgxJ> にコンタクトして欲しいと記載されています。

「コロナ禍でご苦労なさっていることと思います。ご存知かと思いますが、トリエステが政治的な理由で苦境に陥っているので署名等の支援をしてほしいと Allen Frances から連絡がありました。先生方に伝えてほしいとのことでしたので、ご連絡させていただきました。」

<https://t.co/0skVCBWgxJ> にコンタクトしたところ、下記の記載やトリエステ精神保健局の写真があり、署名をすることができます。

我々は 2006 年からトリエステの精神保健に関心があり、コロナ禍で中断しておりますが 2019 年まで 13 回訪問を重ねています。そしてその中でも最近の財政不安について現地で多くのご意見を伺ったことを記憶しております。我々の署名がトリエステ精神保健の一助となることを願っております。但し、このキャンペーンについて我々は当該文章以外の事は理解しておりませんので、ご参加される皆様各自のご判断で宜しく申し上げます。

「Trieste is recognized by the World Health Organization as the model of global best practice in mental health care. It has inspired dozens of programs throughout the world to create an integrated network of community services focused upon the whole-person needs of its users; maintaining their dignity as citizens; and minimizing the coercive practices of old fashioned institutional settings. As we have seen play out in a tragic way in the in the U.S., neglect makes people sicker. Trieste has shown us how community inclusion improves people's lives.

But this great achievement is now threatened by a new right wing regional government that, on poorly informed and ideological grounds, is fast and impulsively dismantling Trieste's wonderful system of community care. We stand in strong solidarity with clinicians, patients, and families throughout the world eager to protect the model of mental health care that has made Trieste a beacon of hope for the world's most vulnerable citizens. As a Friend of Trieste and all that it stands for, please sign this petition and distribute widely.

For updates on this situation, please consult www.accoglienza.us」

「トリエステは、メンタルヘルスケアの世界的なベストプラクティスのモデルとして世界保健機関によって認識されています。これは、ユーザーの全人的ニーズに焦点を合わせたコミュニティサービスの統合ネットワークを作成するために、世界中の数十のプログラムに影響を与えました。市民としての尊厳を維持する。昔ながらの制度的設定の強制的な慣行を最小限に抑えます。米国で悲劇的な形で展開するのを見てきましたが、怠慢は人々を病気にします。トリエステは、コミュニティのインクルージョンが人々の生活をどのように改善するかを示しました。

しかし、この大きな成果は、情報が不十分でイデオロギー的な理由で、トリエステの素晴らしいコミュニティケアシステムを迅速かつ衝動的に解体する新しい右翼地方政府によって脅かされています。私たちは、トリエステを世界で最も脆弱な市民の希望の光にしたメンタルヘルスケアのモデルを保護することを熱望している世界中の臨床医、患者、家族との強い連帯に立っています。

トリエステの友として、そしてそれが表すすべてのものとして、この請願書に署名し、広く配布してください。この状況の最新情報については、www.accoglienza.us を参照してください。」(グーグル翻訳)



－編集後記－

ヴァンホーンさんのご逝去に心より哀悼の意を表します。ヴァンホーンさんと協会の研修を通じて 200 名を超える皆が出会えたことは、大変ありがたく深く感謝いたします。

また、先駆的ベストモデルとして世界のメンタルヘルスの領域に影響を与えた地域(イタリアのトリエステ)で、長年育ててきたシステムが解体の危機にあることを知り大変驚いています。今後もトリエステからたくさん学ぶものがあると思います。ぜひ、存続していただきたい気持ちでおります。(m.shiida)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL070-8438-0688